

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

豊かで美しい松江を未来へ 島根原発2号機再稼働に抗議 各地で市民、党議員が抗議行動

何より命 原発再稼働の条件なし 日本共産党議員団が抗議宣伝



訴える尾村県議と、松江市議団、市議予定候補、亀谷常任委員

中国電力は7日、島根原子力発電所2号機を12年11カ月ぶりに再稼働しました。事故を起こした東京電力福島第一原発と同じ「沸騰水型」と呼ばれるタイプの原発で、東日本大震災のあとのこのタイプの原発が再稼働したのは、今年10月に再稼働した東北電力の女川原発2号機に続き2基目です。また、全国で唯一、県庁所在地に立地し、避難

計画の対象となる30キロ圏内には全国の原発で3番目、稼働中では1番に多いおよそ45万人が暮らしています。

立地自治体の松江市では、日本共産党の尾村利成県議、舟木健治、たちばなふみ両市議、樋野伸一、佐野みどり両市議予定候補、亀谷優子党県常任委員が中国電力島根支社前で再稼働に対する抗議の宣伝を行いました。

尾村氏は「県民は再稼働について理解と納得はしていません。30キロ圏内約45万人の命と安全を守る実効ある避難計画は未策定で、使用済み核燃料の処理方法も確立されていない」と訴え、再稼働の条件はないことを強調。「何よりも命と安全を守らなければ

島根原発2号機再稼働！ 12・7抗議集会に市民駆け付け

7日午後には松江市で原発ゼロをめざす島根の会がJR松江駅前、「島根原発2号機再稼働に抗議します！12・7抗議集会」を開きました。およそ100名の市民が駆け付け次々にリレートーク。鹿島町在住の女性は「病院に勤務している人から、患者さんが『私らはもう長く生きた。原発で事故があったら若いあなたたちは逃げなさい。私らはもう逃げんから』と言われた」と涙ながらに話されたこと忘れられない。町内に避難

なりません。みんなの力で『原発ゼロの島根』をつくっていきましょう」と呼びかけました。員が宣伝しました。

が困難な人が大勢いる」と訴えました。

松江生協病院の眞木高之院長は、原発で事故が起きた場合、寝たきりの患者や、様々な医療機器が繋がっている患者さんを、一斉に速やかに避難させることなど不可能だと「病院長の立場から、島根原発第2号機の再稼働の中止を強く求める」とメッセージを寄せ、島根民医連大国圭介氏が代読しました。

最後に「福島第一原発事故で原発に絶対安全ということ

ずいそう

市民と共に歩んで・・・ 『ジェンダー平等社会を一緒に』 松江市議会議員 たちばなふみ



が多い仕事、保育や介護をはじめとするケアワークやエッセンシャルワークに支えられていること、そしてその多くが低賃金だということがあまりだされませんでした。

私が市政への挑戦を決意した2020年は、コロナが猛威をふるっていました。

学校の急な休校に、小さいこどものいる保護者は困惑し仕事を急に休まざるをえませんでした。日本社会が、女性

「ジェンダー平等」という言葉は「何それ？」と言われていた4年前ですが、「コロナ禍の先にはジェンダー平等社会実現を」これが私の立候補を決意した原点です。

平和で、原発のない誰もが安心して暮らせるまちをめざし、女性の権利・子どもの権利を守り、これからも力いっぱいがんばります。

私は当選後、男女の賃金格差の是正に向けて議会や様々な場面で発言してきました。また、皆さんと一緒に、学校トイレの洋式化はじめ学校環境改善、生理用品の公共施設や学校トイレへの無償配布、保育所職員の処遇改善など一歩ずつ進めてきました。

改めることが大切です。賃金格差は年金額にも大きく影響しています。最低賃金の引き上げ、保育や介護の処遇改善、非正規ワーカーの待遇改善などが課題です。



JR松江駅前で行われた12.7原発再稼働抗議集会に集まった人々

は、仕事も故郷も奪われ、被ばくに怯えるようになった被害に終わりがなく、住民の命や安全を二の次に原発推進する国と電力事業者の企みを許しません。ゆたかな暮らし、子どもたちの未来を、私たちが声を上げ守っていきましょう。再エネで持続可能な地域づくりを」との集会アピールを母親連絡会江角聖子事務局長が読み上げました。出雲市、安来市、雲南市、米子市、境港市などでも市民による抗議行動が行われました。